

昭和六年
六月一日

工事タイムス

第七卷
第六號

丹那隧道 掘鑿困難を極めつ
進捗状況 がある國鐵熱海線

丹那トンネル工事は目下二千四百餘尺を残すのみで熱海口は毎日約一尺を掘鑿し沼津口即ち大竹口は昨秋の震災の爲め、一萬一千尺の最奥部丹那盆地の真下で幅約二十尺の粘土性地質に達達し再び施工困難に陥つたが目下之れが對策としてセメンテーション工中である。六月中にはこれが固まり引續き掘鑿工事が進められる見込みである。

城東線高架工事 電化運轉に
六月上旬に着手 先立つて本

年度失業救済事業として施工せられる大阪城東線天王寺一京橋間高架工事に關する第二工區、第四區に對する工事施行伺ひは今回正式に許可せられることとなつた、これで愈々同工事關係に手が染められることとなるが前月下旬業者の入札が行はれ本月上旬より具體的工事に着手される筈で豫算は約六百萬圓である。

珍しい様式で 合同電氣出
大貯水池を建設 願の松尾川

發電所工事設計變更は近く許可される見込で同社では工事計畫を進めてある、右は吉野川水系祖谷川支流松尾川の流水を引用し三千キロを發電せんとするもので送電線十五哩を以て同社祖谷發電所に送り既設送電線に接續する筈である而して今回の出願には現れてゐないが同社では發電所對岸山上にある盆地を利用して大貯水池を造らんとする計畫がある。即ち水路を六十個通水用の大さとし水量豊富なる期間中は水槽よりサイホン管を以て貯水池に送り置き湯水時他の發電所の出力減退せる場合同發電所を五十キロの出力となさんとする計畫である、斯の如き大容量の貯水池が河面より千百尺高き水槽の附近に造り得るといふことは地勢的に恵まれてあるためとは雖も頗る珍しいことで本邦に於ては初めての計畫で外國にも其例が殆んどないので興味を中心となつてゐる丈けに同社でも極めて慎重な態度で臨んでゐる。只本計畫遂行に就て最も懸念されてゐるのは千百尺もの高所にある同所土質が

平均五十尺の水深に堪え漏水の虞れなきや否やの點である。

新增設の 遞信省では目下工
水力發電 事 中の全國五千馬

力以上の水力發電所新增設實施並に計畫のものにつき調査を續けつつあつたが先頃その調査を終了した。それに依れば新增設水力發電所は合計八ヶ所である、即ち大淀川の四萬九千馬力を最大として九送の二萬馬力、玉川水力の一萬馬力九水の女子畑(増設)一萬三千馬力、電氣化學工業姫川二萬八千馬力で何れも本、明年度中には完成を見るもののみであると。

宇治電小泉 宇治川電氣では
自動發電所 近江小泉全自動

發電所が最近漸く完成したので各用機の調整試運轉を行ふべく準備を進めてゐるが萬端の準備が整ふに至つたので十七日より試運轉を行つた。該水力發電所のヘッドは九十餘尺にて發電機としては芝浦製六百KVA が二臺裝備され出力は九百六十KWであるが、全自動操作装置も共に芝浦製である。

工食用動力を失つた經驗談

東洋第一の大水力發電所の建設工事には 工事秘話も中々にある。次は赴戦江水电工事に關する松村種雪氏の談片。

ダイゼルエンジン室の燒失

535馬力のダイゼルエンジンを6臺設備して原動力

となし、堅坑 隧道等の工食用に供したが、豫定丈では足りなくなり、エンジンには時々オーバーロードならば機械も保てる筈だが、動力不足の爲め止を得ず晝夜續けてオーバーロードした爲め、機械に非常な熱をもち地中を迂迴してゐる排氣管まで赤熱されるに至つた。其管内に何時の間にか油が浸入して瓦斯となり、此瓦斯に引火して爆發し、6臺の機械及び6臺の發電機まで一度に火が移り、動力室は全燒した。

急速工事であるのに、原動力が全然中止したので、大打撃を受ける事となつた。燒けた原動機を全部回復するには少くも五ヶ月を要するのである。そんな